

「お経を丸暗記してみたら」

島根県

宗淵寺檀信徒

金本 和夫

以前の私は、法事のお経が退屈だと思っていました。意味も解らず、いつ終わるとも知れない時間、正座で脚はしびれるし、一刻も早く終わってほしいと考えていたものです。でも困ったことに、私はご先祖様に感謝し、ご供養したい気持ちが人一倍ありました。

そこで必死に考えた結論が、お経を丸暗記することでした。元々洋楽のロックやレゲエが好きだったので、それらの曲を丸暗記して口ずさむのと同じことだと考えるようにしました。今思えば、とても不純な動機ではありませんでしたが、当時の私はそれなりに真剣でした。最初は比較的短い『舍利礼文』しやりらいもんから始め、次に『般若心経』を丸暗記。すると、さらに暗記したいという欲求が出てきて、『修証義』や『法華経』の一部といった長文のお経も丸暗記することができました。

そして、最後に取り組んだのが、『大悲心陀羅尼』だいひしんだらに。ご先祖様を供養する「ナムカラタンノー、トラヤーヤー」と始まるお経でした。菩提寺のご住職は、「『大悲心陀羅尼』は、古いインドの言葉の音と似た漢字を当て字したもので、文字を読んだだけでは意味を成さないけれど、口に出したり黙読するだけで功德がある、まるで呪文のようなお経ですよ」とおっしゃいました。一生懸命取り組んでみると、それまでのお経と比べ、文字が意味を成さない、リズム感は、まさに呪文のように不思議な効果がありました。

その後私は身内を亡くし、大変落ち込んだ時期がありました。その時、私は故人の供養のために、すぎるような思いで毎日仏壇に向かって『大悲心陀羅尼』をお唱えしていました。何日かすると、自分が今まで経験したことのないような穏やかな気持ちになっていることに気づきました。「あんなに落ち込んでいたのに、不思議だなあ」と思いながら、その後も毎日繰り返しお唱えを続けました。すると落ち込みもずいぶん和らいで、おおよそ半年程で、それまでの日常生活を取り戻すことができました。意味も分からず長くて退屈だったお経ですが、今では時間を忘れて一心不乱に読んでいる自分がいます。